

# 令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和7年11月25日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 病害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ

*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

## 2 作物名 ナシ、カキ、カンキツ、モモ、スモモ、さんしょう

## 3 確認の経過及び国内の発生状況

- (1) 令和7年（2025年）11月2日に県中部の果樹園において採取された成虫の持ち込みが県病害虫防除所にあり、11月5日には県西部の果樹園において、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫及び枝等への産卵を確認した。いずれの成虫とも農林水産省神戸植物防疫所に本虫の同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。
- (2) 現在、当該害虫による果樹枝への産卵が確認されているが、果実への被害は確認されていない。また、全国的にも甚大な被害に至っている事例の報告はない。
- (3) 本種は中国原産であり、令和6年（2024年）に神奈川県、埼玉県、福岡県及び山梨県で病害虫発生特殊報が発表されて以来、現在までに23都府県で発表されている（令和7年11月20日現在）。

## 4 本種の特徴及び生態

- (1) 本種はカメムシ目ハゴロモ科の昆虫であり、成虫の体長14～16mm。前翅は茶褐色～鉄さび色である。前翅前縁中央に三角形の白斑が存在する（写真1, 2）。幼虫は白色である。産卵痕は白い毛状の蠟物質で被覆される（写真3, 4）。
- (2) 本種は極めて広食性であり、ナシ、カキ、ブドウ、ウメ、カンキツ類、クリ、ブルーベリー、イチジク、モモ、リンゴ、チャ等への寄生が報告されている。
- (3) 海外では、中国、韓国、トルコ、フランス、イタリア、ロシア、オランダ等に分布している。
- (4) 国内における年間発生世代数など、生態は不明な点が多い。
- (5) 成虫及び幼虫が枝を吸汁する。集団で吸汁すると排泄物にかびが生え、すす病を誘発する。成虫が枝の樹皮を剥いで産卵するため、細枝の枯死や樹勢の低下につながることがある。

## 5 防除対策

令和7年11月25日現在、本種を対象とした登録農薬はないため、以下の耕種的・物理的防除を実施する。

(1) 産卵痕のある枝を除去、園外に持ち出し埋却するなど適正に処分する。

(2) ほ場をよく見回り、成虫や幼虫は見つけ次第捕殺する。

なお、慣行の薬剤防除を行っている果樹園での被害は軽微であることから、慣行栽培ほ場で大きな被害になる可能性は低いと考えられる。

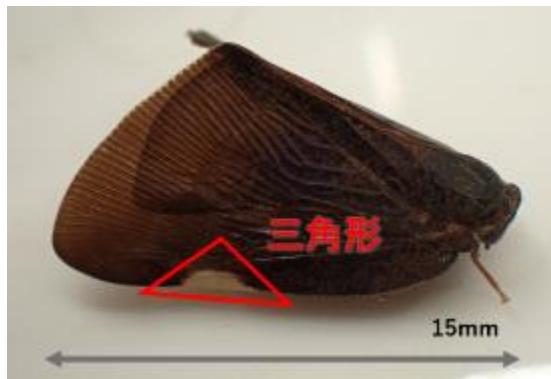


写真1 成虫（側面）



写真2 成虫（背面）



写真3 カキでの産卵痕



写真4 カンキツでの産卵痕

※写真の無断転載禁止

(お問い合わせ)

鳥取県病害虫防除所

(鳥取県園芸試験場内、電話：0858-37-4211)

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/> です。



鳥取県病害虫防除所  
ホームページ2次元コード